

最新旧型機クロックアップ・サイリックス第16回公演

シヤープ

#

作・演出／川原 武浩

CAST

【一】（イノナカ）横山祐香里

【○】（ヨコマル）上瀧 昭吾
（万能グローブガラパゴスダイナモス）

【×】（タテカケ）長岡 暢陵

【△】（ハスヤマ）長沼 里佳
（劇団ぎや。）

STAFF

装置 中島 信和（兄弟船）

安部 将吾（兄弟船）

照明 出田 浩志（Stage Lighting 大黒屋）

音響 青井 美貴

宣伝美術 岩瀬 幹基

制作 石橋 整（万能グローブガラパゴスダイナモス）

撮影 友山 敬太

秒針の進む音。

四方を壁に囲まれた部屋。

正面の壁のやや上の方には壁時計が埋め込まれている。

多少の凹凸はみられるが、そこには出口らしきものは見当たらない。

その部屋の四つの角に、四人の人影。

時間は万人に平等だ、と誰かが言った。

それが絶対的な長さのことを指すのだとすれば、それは疑いのない事実。

一秒は誰にとっても一秒。当たり前のことだ。

一秒の六十倍が一分。

一分の六十倍が一時間。

一時間の二十四倍が一日。

一日の三万倍が、人生。

まあよく生きても、一日の三万倍が人生。

一秒を二十五億九千二百万回繰り返すことが人生。

永遠のようでもあり、

一瞬のようでもある。

でも、僕らはそのタイムアップの笛がいつなるのかを知らない。

まるでサッカーのアディショナルタイムのようだ。

逃げる者にとっては永遠のようにも、

追うものにとっては一瞬のようにも、

その絶対的なはずの時間は、それぞれに別の表情を見せる。

そして、それは時に唐突に、時に緩やかに、時に知らされることもなく終わりを迎える。

そう思えば、時間は万人に平等でもない。

年老いて振り返る過去は瞬きの間のように短く

そこから残された時間はあまりにも短く思える。

濃密な時間は殊更にあつという間に過ぎ去り、

ただ何かをやりすごすだけの空虚な時間は、永遠のように長い。

何かを為すには人生は短く

何も為さないには人生は長すぎる。

そんな永遠のような、一瞬のような時間の中で、迷路と迷宮の違いについて考えていた。

幾多の選択を繰り返し、行きつ戻りつ進むのが迷路。

選択肢はひとつもなく、ただ一本道先へ先へと進むのが迷宮。

人生に良く似ているのは、迷路かそれとも迷宮か。

迷宮入りという言葉はあるが、迷路入りという言葉はない。

何故だ。

○ 事件は迷宮には入るが、迷路には入らない。
× 何故だ。
○ 人は道には迷うが宮には迷わない。
× ていうか宮ってなんだ。
○ 迷宮は英語でラビリンス。
△ ヒヤシンスと語感が似ているがきつとなんの関係もない。
○ 迷路は英語でメイズ。
△ ローマ字読みで「まぜ」。何か意味がありそうだがきつとない。
【 迷宮で迷うのは心、迷路で迷うのは身体。
【 見たこともない出口。
○ あるかどうかも疑わしい出口。
× 僕らは進む。シャープな頭とフラットな心で。
【 迷路だか迷宮だかわからない、ここからの脱出を夢見て。
○ 迷路だか迷宮だかわからない、ここからの脱出を夢見て。
× 迷路だか迷宮だかわからない、ここからの脱出を夢見て。
△ 迷路だか迷宮だかわからない、ここからの脱出を夢見て。

音楽。

四人、各々が様々な脱出を試みる。
と、静かにタイムアップの笛。

(シーン〇終了)

同じく四方を壁に囲まれた、出口のない部屋。

係員のような【】と、何かのイベントの参加者のような【○】【△】【×】。
 どうやら彼らは「脱出ゲーム」のイベントに参加をしているらしい。

【】　　というところで、残念ながらタイムアップになってしまった際には、先ほどのよ
 うな笛の音がします。タイムアップになる前に見事脱出できるよう頑張ってください
 さい！…説明は以上ですが、何かご質問はありますか？

【×】　　はい。

【】　　どうぞ。

【×】　　バナナはおやつに

【】　　入りません。

【△】　　はい。水筒にジュースを入れてきても

【】　　いけません。というか先ほど説明しました通り、場内は飲食・喫煙禁止となっ
 ておりますので、おやつであろうがなかるうが、バナナもジュースも当然持ち込
 み禁止です。

【×】　　#　　ええっ！

【△】　　#　　ええっ！

【】　　ええっ！って言われるこちらがええっ！です。あの、脱出ゲームなので、遠足
 じゃないんで。

【×】　　#　　えええっ！

【△】　　#　　えええっ！

【】　　ええと、どこから説明しなんでしょうか。おやつだけじゃなくて、時計やパ
 ソコン、携帯電話、その他一切の機械・電子機器類の持ち込みも禁止です。

【×】　　#　　ええええっ！

【△】　　#　　ええええっ！

【×】　　#　　ない、時計がない。

【△】　　#　　ない、時計がない。

【×】　　#　　今何時。

【△】　　#　　(お任せ) カイジ！

【×】　　#　　ざわっ！

【△】　　#　　あと何分。

【×】　　#　　(お任せ) 前方後円墳！

【×】　　#　　あわわわわわわ。

【△】　　#　　あわわわわわわ。

【】　　あの、時計なら(壁の時計を指して)そこにありますから。

【×】　　#　　ほっと一安心。(気づいて)ない、スマホもない。

【△】　　#　　ほっと一安心。(気づいて)ない、スマホもない。

【×】　　#　　いつの間に。

- 【△】 どうやって。
- 【×】 電話ができない。
- 【△】 メールもね。
- 【×】 フェイスブックに投稿できない。
- 【△】 LINEに即レスできない。
- 【×】 パズドラできない
- 【△】 呟けない。
- 【×】 艦これできない
- 【△】 ググれない。
- 【×】 ドキドキドキ!
- 【△】 # ガクガクブルブル!
- 【○】 (無視して) ええと、他に質問は?
- 【○】 はい。
- 【○】 どうぞ。
- 【○】 脱出までの制限時間は?
- 【○】 ええと2時間1分です。
- 【○】 その1分は?
- 【○】 といいますと?
- 【○】 なんか気になりませんか?
- 【○】 制限時間2時間・・・1分。
- 【○】 そう、その1分。
- 【○】 そうですかね。
- 【○】 気になりますよ。なんか中途半端で。
- 【×】 一番山の櫛田入りが4時59分からみたいな。
- 【△】 めんたいワイドが3時48分30秒から始まるみたいな。
- 【○】 どうしてですか。何か理由が?
- 【○】 一番山が祝いめでたを歌うからですな。
- 【○】 そっちじゃなくて。
- 【○】 ミヤネ屋が3時48分に終わっちゃうからです。
- 【○】 そっちでもなくて。
- 【○】 制限時間の1分。
- 【○】 そう、その1分。
- 【○】 ええと、説明と質問の時間だそうです。
- 【○】 え?
- 【○】 説明と質問の時間です。要するに、今の、この時間のことです。
- 【×】 え、ってことは。
- 【△】 もしかしてもう始まってること?
- 【○】 あ、はい。

【○】 以外の一同、急に慌てだす。

【】 他にご質問は？
【○】 あります？ ないですよね？
【×】 はじめましょう。早く。
【△】 問題は？
【】 えー（長い間）と
【○】 ちよつと
【×】 なになになに！
【△】 はやく！
【】 問題はー（長い間）、ですね。
【○】 だからなんですか！
【×】 なんだよ、いらいらすんなあ。
【△】 ほら、時間、どんどん経ってる！
【】 問題は：わかりません！
【○】 なんですか、わかりませんって。
【】 ないんです、問題。
【×】 無いつてなんだよ。
【】 文字通りです。問題がありません。
【△】 問題がないと答えようがないでしょ。
【○】 問題を解いて、ここから脱出する、そういうルールでしょ。
【】 ですね。
【○】 なのに問題が無いつてなんなんだ。それこそ大問題だろ。
【】 うまい！
【×】 大喜利やつてんじゃないんだよ。どうなってるの、いったい。
【△】 無いの、それとも失くしたの。どっち。
【】 失くしてません。
【△】 じゃあなんなの。
【】 ええと、問題はどこかにあるはずですので探してください。
【△】 はあ？
【】 問題がどこにあるか探す。それが最初の問題です。
【○】 あ、ああ、なるほどね。そういうことね。
【×】 探すって言ったって、なんか無いの、ヒントとか。
【△】 普通あるでしょ、そういうの。
【】 普通と言われても、自分もこの仕事今日からなんで、よく分かんないんですよ。それではみなさん、この密室からの脱出を目指して頑張ってください。アデ
イオス！

【】、【】、出ていこうとして固まる。

【○】【×】【△】、あたりを闇雲に探り始める。

【○】 あの。
【○】 何？
【○】 あの、出口はどこでしょう…？
【○】 それを探すのがこのゲームでしょ。
【○】 ですよ。

【○】 あたりを見回すが、やはり出口が見当たらない。
【○】 手持ちの資料を読んでみたりするが、なんのヒントもない様子。

【○】 なんかこう、非常口的なのとか、従業員通用口的なのとか…ないね。え、どうすんのこれ。

【○】 【×】 【△】、散々あたりを探るが問題らしきものが見つからない。

【×】 (【○】) はい。

【○】 どうぞ。

【×】 問題が見つかりません。

【△】 ません。

【○】 そうみたいです。

【×】 そうみたいです。じゃなくて、なんかないのヒント。

【△】 あるんですよ、本当は。

【○】 ヒントと言えるかどうかわからないんですけど。

【○】 なに。

【×】 なになになに。

【○】 三人寄れば文殊の知恵、と言いますし。

【×】 言いますし。

【○】 バラバラじゃなく、三人一緒に考えてみたらいいんじゃないでしょうか。

と、そう言った矢先に【○】が何かを発見。

【○】 あった！

【×】 なに。

【△】 なになになに！

【×】 【△】 【○】のところに駆け寄って…

【○】 ほら、ここ。なんか微妙に壁の色が違うと思ったら…

【○】、壁紙の一部をペリペリと剥がす。

【×】# おー！
【△】# おー！
【】# へー。
【×】 あんた本当に何も知らないんだね。
【】 はい。バイト初日なんで。
【×】 ああ、そうなんだ。大変だね。

【○】、問題らしき紙を読む。

【】【×】【△】、【○】の方へ寄っていき…

【×】 なになになに。
【△】 なんて書いてあった？

【○】、紙をさつと隠して嫌そうな表情。

【×】 そんなあからさまに嫌そうな顔しなくても。
【△】 みんなで協力してやりましょうよ。
【】 うんうん。
【○】 断る。
【×】 ええっ！
【△】 # ええっ！
【○】 # 断る。
【×】 まあそんなつれないこと言わないで。
【△】 もしかして照・れ・屋・さ・ん？
【○】 照れてない。【】に これ、全員で一緒に解かなきゃいけないなんてルール
じゃないですよね。
【】 ええ、はい。
【○】 じゃあ断る。

【×】 # えええっ！

【△】 # えええっ！

【×】 そんなご無体な。

【△】 そんな殺生な。

【×】 せめてヒントだけでも。

【△】 お願いします。

【×】 (謎のポーズ) この通りです。お願いします。

【○】 なんだよ、そのポーズ。

【×】 自分でもよく分かりません。

【△】 (謎のポーズ) 私からもお願いします。

【○】 お願いしてるポーズじゃないだろ、なんだよそれ。
【×】 隙ありっ！

【×】、【○】に素早く絡み付き、何らかのプロレス技的なものをかける。

【○】 うわあ。なんだよ、やめろ、いてててて！

【△】、【○】から紙を奪い取って…

【○】 うわあ、何すんだ、返せ！

【×】 なんだ、何て書いてあった？

【△】 大変だ！

【×】 どうした！

【△】 何か読めない文字が書いてある。

【○】 (覗き込んで) ああ、それ上下が逆なんじゃ。

【△】 うむむ？ (ひっくり返した) おー！

【×】 読めたか！

【△】 …ハズレ。

【×】 ん？

【△】 (見せて) バーン。はずれー。

【×】 なんですと。

【△】 ハズレ。もう一回チャレンジ。だって。

【×】、思わず技を緩める。

素早く脱出し、問題を探し始める【○】

【○】 ああ、これは、なんというか、見事にハズレですね。

【×】 そうなの？

【△】 ハズレと見せかけて、何か深い意味が…

【○】 あるかもしれませんね。ないかもしれませんが。正直、わかりません！

【○】、他に何かないかキョロキョロしながら探している。

【×】 ハズレならハズレって言えばいいのに。

【△】 照・れ・屋・さ・ん！

【○】、何か言い返そうと一瞬動きを止めるが、搜索を継続。

【×】 まいったな。

【△】 結構探したよね。

【×】 他にもどこか変なところがあるってことかな。

【△】 でももう結構探したよね。

【×】【△】【△】、ちらちらと【】を見ながら話し続ける。

【△】 【×】
探したねえ。

問題を解くどころか、見つけることもできずに時間切れとかになっちゃったら

…やだよね。

【×】
やだねえ。

【△】
あー、何かないかなあ、ヒント。

【×】
ヒント。

【△】
どこにあるんだろうなあ、問題。

【×】
問題。

【△】
ほしいなあ、ヒント！

【×】
ヒント！

【×】【△】【△】、あからさまに【】にヒントを要求。

【】
なんです。知らないです、知らないですよ、本当に。というか、私こそ脱出
できるもんならしたいと思ってるんですけど。

【×】
そんなこと言って、本当は知ってるんですよ。問題がどこにあるか。

【△】
あるか。

【×】
なんなら出口も。

【△】
出口も。

【】
だから知らないんですってば。困ってるんですよ、私も。

【×】
さあ、どこですか問題。

【△】
さあ、どこですか正解。

【×】
さあ。

【△】
さあ。

【×】
あ、さあさあさあさあ！

【△】
あ、さあさあさあさあ！

【】
知ーりーまーせーんー

【】、目をそらす。

と、【×】【△】【△】、【】が見た方向へダッシュ。

【△】
あっちだ！

【×】
どこ、このへん？

【△】
確か、この辺を見たはず。

【】
あ、あの、何です？

【×】
さすがは熟練のナビゲーター。見事な演技でした。

【】
え、演技って？

【△】 そのたどたどしき、いかにもバイト初日って感じを装ってはいるが、実はそれもシナリオのうち。

【】 あの、事実バイト初日なんですけど。

【×】 いやいやいやいや、博多区の脱出王とごく一部で言われている私の目は欺けませんよ。

【△】 あなたは「バイト初日の脱出ゲームのナビゲーター」という役を演じている。そうですね。

【】 違います。

【×】 まああなたは当然そう言うでしょう。しかしそんな熟練のあなたも、無意識には勝てない。

【】 なんのことでしょう。

【△】 言うでしょう。目は口ほどにものを言うって。

【】 ええ、はい。でもそれが何の関係が？

【×】 先ほど我々が「問題」という言葉を言うたび、あなたはチラチラと落ち着かない様子だった。

【】 そうですか？

【×】 そうでした。

【△】 そして最後に意味ありげに目をそらした先がここ。

【】 いや、たまたまです。

【△】 つまり、問題はこのあたりに隠されている。

【】 深読みしすぎだと思います。

【△】 おそらく、あなたの一挙手一投足、その全てに意味がある。

【】 そうなんですか？ え、こんなのも？

【】、どう考えても意味不明な動きをする。

【×】 (悩んで) これは、どういうことだろう。

【△】 あの、もう一回いいですか？

【】 あ、はい。再現できるかわかりませんが。

【】、再度どう考えても意味不明な動きをする。

【×】【△】、それを大いに深読みして解釈する。

【×】 なるほどわかったぞ(おまかせ)ということか。

【△】 ということは(おまかせ)は(おまかせ)という意味で。

【×】 すると、(おまかせ)が(おまかせ)で

【△】 (おまかせ)から(おまかせ)になると。

【×】 つまり、問題のありかは、ここだ！

【×】、壁のどこかを引っぺがそうとする。

【△】 (突き指した) あいたー! (△に) タッチ交代、あとは任せた。
【×】 任された。つまり、問題のありかは、ここだ!

【△】、壁紙を破る。

【△】 あー!

【×】 わー!

【△】 いやでももしかしたらその裏に問題が書いてあったり…

【△】 (首を横に振る) しないー。

【△】 最初に説明したとおり、破いたり、壊したりしなくても、問題はちゃんと見つかるようになってますから。以後、気をつけてください。ええと、こういう場合は、5分間ペナルティです。

【△】 ペナルティって?

【△】 5分間、ゲームに参加できません。

【△】 その間は?

【△】 どこか邪魔にならないところであれを被って立っててください。

天井からクリスマスパーティー的な恥ずかしいかぶり物が2個落ちてくる。

【△】、すぐごと破り、立たされ坊主になる。

【△】、もう一個を拾って…

【△】 (×) に) どうぞ。

【×】 え、なんで?

【△】 お二人、チームですよね。

【×】 いいえ。

【△】 ああそうなんですか…って、いやいやいや。そんなわけないでしょ。

【×】 チームでもコンビでも。ペアでもカップルでもありません。

【△】 じゃあアベック。

【×】 その言葉、昭和と一緒に消え去ったと思ってました。違います。赤の他人です。

【△】 (うなづく)

【△】 その息の合いよう、そこらの若手芸人コンビを遥かに越えるレベルにみえるんですけど。

【×】 たまたまです。

【△】 (うなづく)

【△】 …まあ、いいでしょう。でも次はないですからね。

【×】 (×) 【△】、セーフのポーズ。

【×】 (×) 【△】、壁をもう一度くまなく調べはじめる。

【○】 ああ。

【○】 (ビックリした) ふおっ! びっくりした!
【○】 本当にあるんですか、問題。
【○】 はい。だと思えますよ。
【○】 思えますって。
【○】 いや、あるはずですよ。でないと脱出ゲームにならないし。
【○】 (小声で) ヒント。
【○】 え、なんですか?
【○】 (小声で) だからヒント。
【○】 (小声で) なんでヒソヒソ声なんですか。
【○】 (小声で) 聞かれるだろ、あいつらに。

【×】【△】、あからさまに聞き耳をたてている。

【○】 (小声で) ないです、ヒント。本当に知らないんですよ。
【○】 (小声で) またまた。そういうシナリオなんでしょ?
【○】 (小声で) 真正正銘、ただのバイトです。というか、掛け持ちで次のバイトがあるんで、できれば制限時間前に脱出してもらえとすぐくうれいんですけど。
【○】 (小声で) まあ、そういうことにしときましようか。じゃあ、これだけ探して問題らしきものが出てこない、この状況で、あなただったらどう考えます?
【○】 私だったらですか? うーん、そうですね。最初から考えなおします。
【○】 最初から。
【○】 これだけ皆さんが探しても何も出てこないんだから、もしかしたら、さっきのアレが何かのヒントなんじゃないかと思うんですよね。
【○】 アレってハズレのこと?
【○】 あ、はい。

【○】、床に丸めて捨ててあったハズレの紙を拾ってくる。

【○】 ハズレ。もう一回チャレンジ。
【○】 ですよ。だから。えーと、(考えて) 文章を素直に読んで、もう一回チャレンジしてみたりとか?
【○】 だから他の場所の壁紙も剥がせるんじゃないかと思って、散々探してるんじゃないか。

【×】【△】もうなずいて同意。

【○】 …あ、わかったかも。
【○】 わかったって、何が?
【○】 答え。なんかビビッときました。
【○】 どういうこと。

【】 だから、もう一回チャレンジすればいいんですよ。
【○】 だから、もう散々チャレンジしてるでしょ。
【】 そうじゃなくて、別の場所じゃなくて、同じ場所でもう一回チャレンジするんです。

【○】 もう一回って、だってもうその壁紙剥がしちゃってるでしょ。

【】 壁のところを慎重に調べて…

剥がした後の、壁の地だと思っていた場所がペリペリと剥がれはじめる。

【】 ほら！

【○】 おー！

【×】 # おー！

【△】 # (ジェスチャーで「おー！」)

壁紙、完全に剥がれきる。

【】 よっしゃキター！

【○】【×】【△】、一同で拍手。

【】 うわあ、なんか爽快！

【○】 でしょ。その解けた時の爽快感がなんか癖になるんですね。脱出ゲーム。

【】 才能ありますかね、もしかして。

【○】 本当は知ってたんでしょ、答え。

【】 いえ、本当にせんぜん。

【○】 あ、それ、見せてもらっていいですか。

【】 あ、どうぞどうぞ。

【○】、【】 から紙を受け取り読もうとした瞬間…

【×】 隙ありっ！

【×】、【○】 に素早く絡み付き、何らかのプロレス技的なものをかける。

【○】 うわあ。なんだよ、またこのパターンか、いててて！

【×】、【○】 から紙を奪い取って…

【×】 ご苦労さん。えー、灯台もと暗し…

【○】 返せ、コラアッ！

【○】、【×】に素早く絡み付き、何らかのプロレス技的なものをかける。

【×】 うわあ。いててててて！ ギブギブギブ！

【×】、【○】から紙を奪いかえす。

【○】、改めて紙を読んで…

【○】 「灯台もと暗し。果報は寝て待て」…ってどういうこと。
【×】 どういうこと。

【○】 (ドヤ顔で) 灯台は真下が暗いってことですね。

【○】 いや、意味は知ってます。

【○】 果報は寝て待ちなさいってことですね。

【○】 それ、そのまま読んだだけで何にも説明してないですよね。
【○】 ですね。

【○】 だいたい、果報ってなんだか知ってます。

【○】 果報は…なんか、いい知らせみたいなの？

【○】 そうそう。

【○】 違います。

【○】 違うの？

【○】 果報っていうのは、「努力した結果の知らせ」って意味です。

【○】 へー。そうなんですね。

【○】 で？

【○】 でって？

【○】 果報の意味はわかったけど、だから何なの。

【○】 何なのって、何だよ。

【○】 この問題の答えに何か関係あるわけ？

【○】 教えてあげません。

【○】 なんだよ、感じ悪いな。

【○】 あんたもね。

【○】 やんのか。

【○】 なんだよ。

【○】 よしわかった表に出ろ！ って出れないか。

【○】 まあまあ、そうツンケンせずに、お互い協力してやっていきましょうよ。私も手伝いますから。

と、アラームのような音がする。

【△】 あ、ペナルティの5分間終了です。(【△】に) どうぞゲームに戻ってください。
【○】 長かった。

【○】と【×】、反目している雰囲気。

【○】 灯台もと暗し、素直に解釈すれば。どこか低い位置に何かがあるってことか。
【×】 果報は寝て待て。素直に解釈すれば、寝っ転がって待ってってことか。
【△】 ことだ。
【○】 どっちにしても、なんか下の方っぽいですよね。
【○】 それヒント？
【○】 わかりません。
【×】 じゃあフェイント？
【○】 そうかもしれないけどどちらともいえません。
【○】 足元、足元。
【○】 寝て。
【×】 待て。
【△】 寝て。
【×】 待て。
【△】 待て。

【○】 は足元をいちいち調べながら、
【×】 と【△】 は寝転がって地面を這いずって移動。
しかし、お互い何も見つけられない様子。

【○】 どこだ。
【×】 問題。
【△】 ないよ。
【○】 問題。
【×】 どこだ。
【△】 問題。
【○】 ないよ。
【×】 問題。
【△】 どこだー！
【○】 ていうか、そもそも何を探してるんだっけ。
【×】 問題？
【△】 それとも答え？
【×】 【○】 はい。
【○】 なんてしよう。
【×】 何かが見つかりません。
【△】 何を探してるかもわからなくなりました。
【×】 というより、何をしたらいいのかわかりません。
【△】 目的を完全に見失いました。

【×】# ということで何かヒントを。
【△】# ということで何かヒントを。
【】 ああ、さつきからあきらめるの、早すぎませんか？

【○】はまだあきらめずに色々を探している様子。

【×】 (爽やかに) 潔いでしょう？

【△】 (晴れやかに) でしょ？

【】 それって日本語あってますか？

【×】 こらえ性が無いんです。

【】 それはあってますね、日本語。

【×】 ヒントください。

【△】 どうすれば。

【×】 教えてください。

【△】 どうするか。

【】 そういわれましても。

【×】 だいたい、なんか問題が漠然としすぎてない？

【△】 そうそう。

【】 そうですかね。

【×】 そうですよ。

【△】 そうでしょう。

【○】、【】の足元付近を搜索。

【○】に ああ、すっごい気になるんですけど。

【】 こっちもすっごい気になるんだよ。

【】 なんですか。

【○】 あなた、さつきから一歩も動いてないよね。

【】 ン？ そうですっけ？

【×】 そういわれてみれば。

【△】 確かにそんな気も。

【】 え、たまたまじゃないですか？

【○】 ちょっと動いてみて。

【】 (上半身を動かす)

お約束はいいから。床は全部調べたけど何も見つからなかった。あなたの足元以外はね。

【】 (ハッとした表情)

【○】 ちょっとどいてもらってもいいかな。

【】 …どうぞ。

【】、素直に動く。

【○】 灯台もと暗し、果報は寝て待て。

【○】、素早く【】のいたあたりに這いつくばって…

【○】 なるほどね。壁の次は床ってわけか。

間。

しかし【】がど退いたあとの床からは何も見つからない。

【○】 …あれ？

(真似して) なるほどね。壁の次は床ってわけか。

【△】 わけか。

【×】 ぶはははは、恥ずっ！

【△】 うけるー！

【】 も笑いを必死にこらえている

【○】 あれ、なんで？ なんで？ なんで？

【○】、「なんで？」と言いながら回転しつつ床をじりじり移動。

【△】 なんだろう、あの動き。

【×】 なんかどこかで見たような。

【△】 あれは！

【×】 そうだ！

(効果音つぽく)ポピーペポー、ワシヤワシヤワシヤ

【×】 ルンバだ！

【△】 生ルンバだ！

【×】【△】、【○】の動きを真似する。

生ルンバ、三台に増える。

【×】 # ワシヤワシヤワシヤワシヤ

【△】 # ワシヤワシヤワシヤワシヤ

【○】 なんだよ、お前ら！ 真似すんな！

【】 (吹き出す)ぶっ！

【○】 笑うなっ！

【】 いや、違います。笑ってるんじゃないんです。そうじゃなくて…

【×】【△】、生ルンバのまま【】の視界に入ってくる。

【×】# ワシヤワシヤワシヤワシヤ
【△】# ワシヤワシヤワシヤワシヤ

【×】【△】、ルンバのように【】にぶつかって方向転換。

【】、ついに笑いをこらえ切れなくなつて…

【】 ぶつ、ははははははははは！

【○】 何がおかしいんだ！ 真剣なんだよ、こっちは！

【】 いや、だって…

【○】 笑うなー！

【×】【△】、無言で【○】の「笑うなー！」の真似。

【】、ツボに入ったのか、床に転がって足をバタつかせて笑う。

と、その【】の靴の裏に何か紙っぽいものが見える。

【○】 あ、おい、ちよつと！

【】 (笑いながら) なんですか。

【○】、真顔でいきなり【】の足首を掴む。

【】 キヤー！

【】、見事な延髄切りからのヒールホールドで【○】を組みふせる。

【○】 ギヤー！

【】 (素に戻って) なにすんですか！

【○】 痛たたた、靴、靴！

【】 靴？

【○】 だから、靴、靴の裏に。

【】 それは何ですか！

【○】 見て、靴の裏。

【】 変態！

【○】 どんな種類の変態だよ。なにかついてるだろ、靴の裏。

【】 【○】の靴の裏をみて) 汚っ！ ガム踏んでます。

【○】 違う、俺のじゃなくて、アンタの靴の裏！

【×】【△】、【】の靴の裏を見て…

【×】# あった！
【△】# あった！
【○】# あ痛たたたたた！

【△】、【】の靴の裏から紙を剥がす。

【△】 ほら、これ！

【】 え、何？

【△】 あった、次の問題！

【×】# ばんざーい、ばんざーい、ばんざーい三唱！

【△】# ばんざーい、ばんざーい、ばんざーい三唱！

【】、ヒールホールドを解除。

【】 【○】にあの、なんかすいません。つい、反射的に。

【○】 いいよ、もう。こつちもいきなり足掴んだりして、申し訳なかった。

【】 ですよ、それでいきなり靴の裏を見ろとか、新種の変態かと。

【○】 社交辞令だよ、よかないんだよ、本当は！ いててて。今は時間の方が大切だから、本当はよかないけど、もうそれはそういうことにしときましようつて。大人の判断なんだよ！

【○】、足を引きずりながら立ち上がる。

【△】、折りたたんであった紙を開いて…

【△】 大変だ！ また読めない文字が…

【×】 逆、また上下が逆。

【△】 うむむ？（ひっくり返した）おー！

【×】# …？

【△】# …？

【△】 これ、なんだろ。

【×】 わからん。どういう意味だ？

【○】 何、何て書いてあんの。

【×】と【△】、顔を見合わせて微妙な表情。

【○】 見せるよ、だいたい見つけたのはこつちだぞ。知る権利があるだろ。知る権利が！

【△】、その声を聞いてか聞かずか、紙を【】に渡す。

【一】 (紙を読み上げて) 辞令。営業部・第二営業課長ヨコマルカツトシ。右の者、現職務を解き、キャリア開発室勤務を命ず。

【一】、その紙を静かに【〇】に渡す。

【〇】 え？

(シーン1終了)

壁の時計がいつの間にか9時少し前を指している。
壁の下の方が舞台にせり出し、椅子のようになる。(正面2、上手2)
その椅子の一つに【×】が座っている。

【△】は、上手の椅子に座り、事務的な仕事をしている風である。
辞令を手に持ったままの【○】

【○】 あのと。
【×】 …はいい？
【○】 キャリア開発室っていうのは…
【×】 ここ。

微妙な間

【○】 あのと、今日から異動でこちらに来ることになりました。ヨコマルです。
【×】 ああ、そう。
【○】 聞いてませんか、人事から。
【×】 いや。
【○】 そう、ですか。
【×】 伝えないだろ、人事も。
【○】 伝えない？
【×】 そうだろ。だって意味がない。誰が来るとか伝えたって。
【○】 どういう意味です。
【×】 そのままの意味だよ。
【○】 あのと、ヨコマルです。営業二課から来ました。
【×】 (興味がないさそう) …。
【○】 あのと、あなたは？
【×】 意味ないよ、聞いても。
【○】 そんなことないでしょう。同じ職場の人間が誰か知らなくっちゃ、仕事にな
ないでしょ。
【×】 仕事にはならないだろうねえ。
【○】 だったら。
【×】 …タテカケ。よろしくどうぞ。
【○】 あ、ああ、タテカケさん、タテカケさんね。あのと、ヨコマルです。
【×】 さっき聞いたよ。
【○】 いや、なんだか覚えてなさそうだったので、つい。
【×】 面倒だからマルでいいかな。呼ぶこともそうないと思うけど。
【○】 いきなりニックネームとは、距離縮めてきますね。
【×】 縮めたいのは距離じゃなくて名前。

【○】 はあ。しかしまたどうして。
【×】 面倒なんだよ。もう何もかも面倒。息をするのが面倒で、そのまま息を引き取りたいくらい面倒。俺呼ぶときもカケとかでいいから。短く。もうね聴くのも面倒なんだよ。

【○】 カケって、なんか言いにくくないですか。

【×】 じゃあバツでもペケでもいいよ。好きに呼んでくれ。

【○】 朝からテンション低いですね。

【×】 君は高いね。

【○】 そうでもないですよ。

【×】 俺に比べてね。

【○】 まあ、相対的な話だとそうかもしれせんけど。

【×】 まあ、そのうち、下がってくるよ。相対的にも、絶対的にも。

【○】 はあ。

息苦しい間。

【○】 あの。

【×】 はいよ。

【○】 カケさんは。

【×】 カケでいいよ、カケで。

【○】 いや、そんなわけには。お見受けしたところ、先輩のようすし。

【×】 先輩？ 誰が。俺が？

【○】 はい。カケさんは、長いんですか。この部署。

【×】 長いよ。

【○】 どれくらい、いらっしやるんです？

【×】 忘れた。

【○】 あ、じゃあこの部署の前はどこに

【×】 いたのかも忘れた。

【○】 またまた。

【×】 俺、何やってたのかな、この会社で。

【○】 あ、じゃあ入社年次は…って言っても覚えてないでしょうし、そうだ、同期。

同期はどなたですか？ 営業部だったら、コメヤマ部長とか、

【×】 コメヤマ…

【○】 ほら、どことなくオバマに似てる。

【×】 知らんなあ。

【○】 じゃあ、ナカヤマ執行役員とか、年代的にはそんな感じですよね。

【×】 ナカヤマ…

【○】 ほら、かぎりなく習近平に似てる。

【×】 知らんなあ。だいたい習近平って誰だ。

【○】 国家主席ですよ、中国の。

【×】へえ、物知りだね。えーと、マルは。さすがマルだ。カケとは違う。
【○】ご謙遜を。っていうか冗談ですよね？
【×】営業部：同期、ああ、居る居る、まだ居んのかな、キタヤマ。
【○】キタヤマ？
【×】そうそう、キタヤマ。
【○】若いのはいますけど、そんな年齢のキタヤマさんって居たっけな？
【×】(時計をみて)そろそろか。
【○】始業ですよ。朝礼とかありますか？
【×】ないよ。
【○】他の人は？
【×】いなくなつた。
【○】直行ですか？
【×】ある意味ね。
【○】あの、私の席は。
【×】好きなどこ座りなよ。
【○】フリーアドレスですか。
【×】あるのは座る場所を選ぶ自由くらいのもんさ。

【○】、少ない選択肢の中から席を選ぶ。

【×】タバコは？
【○】吸いません。
【×】便所は？
【○】済ませました。
【×】昨日はよく眠れた？
【○】いや、それが実はあんまり。
【×】よくないね。
【○】今日から新しい部署だと思つと、なんか眠れなくて。
【×】まあ、今日からは、良く眠れるよ。もうグツスリ。
【○】そうですか。
【×】それか全然眠れなくなるか。もうパツタリ。
【○】なんですか。
【×】そのうち分かる。

始業のチャイムが鳴る。

【×】おっと。(着席して正面を見つめる)
【○】あの。
【×】∴。
【○】あの、すいません。

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

【○】

【×】

∴。

あの！

(口元を押さえてしゃべる) こっちむくな。

え、なんですか。

しゃべる時は、口が動いているのを見られないように、こうやって隠せ。

(とりあえず言われたとおりに) なんかマウンドのピッチャーみたいですね。

声が大きいです。

すみません。

だからこっちは見るな。

え、なんですか。

見られてる。

見られる？

記録もされてる。

何を。

スリーアウト取られたらチェンジだからな。

野球？

もしかして、本当に何も知らないの？

知らないというか、訳が分かりません。

可哀そうに。

え、え？ あの、仕事は？ 何をしたらいいんですか。

∴。

キャリア開発室って、何をどうする部署なんですか。人事部の研修担当とは違うんですよね。

何を、どうにも、しない部署だよ。

じゃあ仕事はない。

またまた。

ここに座って、何もしない。

(本気にしてない) はいはい。

まずは十二時の昼休憩まで。

はい。

とにかく減点項目に気を付けてじっとしてる。

減点？

居眠り、私語、私用電話、インターネット、トイレ休憩、その他じっとしてる

以外の全て。

で、本当は何をすればいいんですか？

本当に、何もしなくていいんです。

ははは。

むしろ、余計なことはするな。

(手を口から離し) もういいでしょ、冗談はこれくらいにして仕事しましょうよ。

どこからか短くブザーが聞こえる。ワンアウト。

【×】 いわんこっちゃない。

【〇】、慌てて口を押えながら着席。

【〇】 あの、今の。

【×】 とられたな、ワンアウト。大丈夫、まだあとツーアウト残ってる。しまっ
ていこう。

【〇】 スリーアウトで？

【×】 ゲームセット。

【〇】 ゲームセットって。

【×】 最悪解雇！

【〇】 クビ？

【×】 良くて地方の子会社に転籍！

【〇】 島流し？

【×】 給料半分以下。

【〇】 家のローンが！

【×】 ってことにならないように、とにかく何もせずに耐える。

【〇】 …はい。

【×】 まあ、楽なもんだよ。昨日までに比べれば。

【〇】 何が違うんですか、昨日までと。

【×】 マルがいる。昨日までは長いことひとりぼっち。みんなアウトになっちゃった
からねえ。

【〇】 え、じゃあこの部署ってもしかして…

【×】 そう、オンリーユー、アンドミー。

【〇】 これじゃあまるで追い出し部屋じゃないですか。

【×】 そうだよ。

【〇】 え、今なんて？

【×】 そうだよ。

【〇】 これじゃあまるで追い出し部屋じゃないですか。

【×】 そうだよ。

【〇】 ええっ！

【×】 ええっ！ 気づいてなかったの？

【〇】 気づきませんよ。なんですとかそれ！

【×】 キャリア開発室っていうのは、もうあなたの仕事はうちの会社にはないので、
あなたが何ができるかよく考えて、ここ以外のどこかでそれを活かして頑張れ
る場所を見つけないさい部屋、って感じかねえ。

【〇】 …何で俺が。

【×】

さあ。

【○】

俺、なんかしましたか？

【×】

したかもしれないし、しなかったかもしれない。はたまた何もしなかったことがよくなかったのかもしれない。

【○】

そんな。

【×】

理由なんて知っても何も変わらないし、知ったところで空しくなるだけさ。まあいいじゃないの。

【○】

よかないでしょ。なんで、どうして。

【×】

ぜんぜんいいよ。なんてったって、一人じゃない。♪一人じゃないって素っ敵なことね〜とくらあ。

【○】

素敵じゃない。なんでそんなに平然としてられるんですか。大変なことですよ、これは。

【×】

大変だよ。なんせちよつと油断したら、野村義男とザ・グッバイだ。

【○】

ジェネレーションギャップで何を言ってるか全然わからないんですけど。

【×】

いや、自分もそんな世代じゃないけどさ。

【○】

嘘つけ！

【×】

まあそれはさておき、スリーアウトとられないようにしてれば、追い出されることもないし普通に給料ももらえる。売上ノルマがあるわけでもないし、クレマーみたいな客相手にしなきゃいけないわけでもないし、嫌な上司がいるわけでもない。考えようによっては天国だよ。

【○】

地獄だ。これは地獄だ。

【×】

住めば都ってやつ？

【○】

嫌ですよ。こんな都

【×】

そう？

【○】

どうすれば？

【×】

どうしようもないねえ。諦めてアウトになるか、それとも耐えるか。

【○】

どっちも嫌な場合は？

【×】

その選択肢はないねえ。まあそれぞれ楽しみ方を見つけながら時間をやり過ごすくらいだろうねえ。

【○】

楽しみ方って、こんな状況で何をどう楽しむって言うんですか。

【×】

あるよー。色々ある。

【○】

例えば？

【×】

アウトになるギリギリのラインで駆け引きをするとかね。

【○】

なんですか、それ。

【×】

具体的には、そうだな。これだ。

【×】、目を閉じる。

【×】

目をつぶって、それが居眠りと判定されてアウトになるのが、だいたい十秒。

【○】

【×】 テンカウントでノックアウトと覚えておくといい。
【○】 はあ。詳しいですね。

【×】 これまで消えていった奴らの統計から、会社がどの辺で線を引いてるのか推測してみたんだ。

【○】 その情熱を仕事に向けてたら、こんなところに送られたりしなかったんじゃないでしょうか。

【×】 心の中で数を数えながら、ギリギリでパツと目を開ける。

【×】、開眼。

【×】 ふう、セーフ。さあ。

【○】 さあって？

【×】 マルもやってみるといい。

【○】 いや、でも。

【×】 どうせやることはなにもないんだからさ。なにもせずにいると、いつの間にか本当に寝ててアウトになるぞ。そういうやつらをたくさん見てきた。

【○】 はあ。じゃあ。

【○】、目を閉じる。

【○】 (心なしに数え方がはやい) 一、二、三、四、五、六、七、八、九…

【○】、開眼。

【×】 ビビりだね。早すぎる。

【○】 いや、でもしオーバーしたら。

【×】 しないしない。そこをストレスでやるからこそ、緊張感が生まれて眼が冴えるわけだよ。

【○】 はあ。

【×】 それくらいやらないと、意味がない。見ろっ！

【×】、再度目を閉じる。

【×】 (余裕のゆっくりカウント) 一、二、三、四、五、六、七、八、九…

【×】、カッと目を見開く。

【×】 セーフ！

【○】 達人だ！

【×】 もう一度！

【×】(余裕のゆっくりカウント) 一、二、三、四、五、六、七、八、九…

どこからか短くブザーが聞こえる。【×】、ワンアウト。

【×】あら。

【○】あら、じゃないですよ！

【×】まあ、たまにはこんなこともあるね。

【○】余裕みせすぎでしょ。

【×】大丈夫大丈夫、まだワンアウト。

と、部屋に【一】が入ってくる。

【×】、それに気づいて…

【○】あれ、あの子は？

【×】気をつけろ、罠だ。

【○】罠？

【×】話しかけてきても、決して仕事の話以外しちゃいかん。

【○】ええ。

【×】基本は無視だ。

【○】え、ええ、はい。わかりました。

【一】、【×】のところに近付いてきて…

【一】タテカケさん！

【×】…。

【一】相変わらず、無愛想なんですね！

【×】…。

【一】でもそんなところがクール！

【×】…。

【一】あの、実は、折り入って相談があるんですけど。

【×】…。

【一】ちよっと、ここじゃ話しにくいので、外出れません？

【×】ほらきた、罠だ！

【○】トラップだ！

【×】ダメ？

【○】…。

【一】じゃあ、ヨコマルさんに相談しちやおうかな！

【一】、【○】にターゲットを変更。

【】 ヨーコマルさんっ！
【○】 …。
【】 (見つめる) じーっ。

【○】、目をそらす。
【】、位置取りを変えて…

【】 (見つめる) じーっ。

【○】、再度目をそらす。
【】、再度位置取りを変えて…

【】 (見つめる) じーっ。
【×】 やめろ、そいつはヤバい。ヤバいんだって。
【○】 大丈夫ですよ、仕事の話ならいいんでしょう？
【】 (見つめる) じーっ。

【○】 何か？
【】 素敵！
【○】 え？

【】 (日替わり・何か意外性のあるものをほめる) その○○、すごい○○ですよね！
【○】 (かろうじて無視) …。
【】 えー、何かリアクションしてくださいよー。
【○】 仕事でなんで。

【】 カッコいい！
【○】 相談って、何か仕事のこと？
【】 あ、はい。でも、ここじゃちよっと…。
【○】 仕事ならここでいいでしょ。
【】 えー、でもー。タテカケさんもいるしー。
【○】 仕事なら気にする必要ないんじゃない？
【】 ヨコマルさんがいいならいいんですけどー。
【○】 どうぞ？
【】 えっと、じゃあ、これなんですけどー。

【】、何か紙を取り出して…

【○】 何？
【】 ここに、ハンコもらいたいんですよー。
【○】 いいけど。
【】 わーい。
【○】 いいけど、何の書類？ あれ、ハンコ、ハンコどこにやったっけ？

【】 ヨコマルさんのハンコはここです。
【○】 なんで持つてる？

【】、なんだかわからない紙に勝手に押印しようとする

【】 (ハンコに息をかけて) ハーツ。

【○】 (危険を感じて) やめろ、なんだその紙！

【○】、とっさにハンコを持った【】の手首をつかんでしまう。

【】 キヤー！

【】、勝手に押し倒されたような形になる。

【】 キヤー！ やめてください！

【○】 ちよ、ちよっと、何自分から倒れ込んでんだ！

どこからか短くブザーが聞こえる。【○】、ツアーアウト。

【】 アウトー！

役目を終えた【】、そそくさと退場。

【×】 もうツアーアウトか。短い付き合いになっちゃいそうだね。

【○】 なんだよ、今の。どうかわせばよかったんだよ。

【×】 だから無視しろって言ったのに。答えちゃった時点で逃げ道なし。退職願にハンコ押しされちゃうか、セクハラでワンナウトとられるか。まあハンコ押しされちゃったらダブルプレーでいきなりゲームセットだったから、まだよかった。そう思おう。

【○】 よくないよ。まだ全然時間残ってるのに、もうツアーアウトって。
【×】 まだワンアウト残ってる。ドンマイ。

と、そこに【△】が入ってくる。

【○】 また誰か来た。

【×】 無視だ。今度こそ無視だぞ。

【○】 わかりましたよ。

【△】、【○】の前に立って、ひたすら頭をぺちぺち叩き続ける。

【×】 無視だ、無視だぞ。

【○】、ぺちぺち叩かれながら頷く

【△】、執拗に【○】をぺちぺちと叩き続ける。

【○】 なんだろう、一発一発は痛くも痒くもないのに、心の底からわき上がるようなこのイライラ感は。

【×】 耐えろ。家畜が来る日も来る日もポンプで乳を搾られたり、産んだ端から卵を搔っ攫われたりする理不尽に文句ひとつも言わないように、筋金入りの社畜としてこの終わりのなき理不尽に耐えるんだ。

【○】 牛とか鶏とかと一緒にしないでください。

早回し。【△】、【○】を音速でぺちぺち叩く。

【△】、リズムを変えてぺちぺち叩き続ける。

【○】 …ああ、イライラする。

【×】 そんなイライラを鎮める、秘密の呪文を教えよう。
【○】 なんですか。

【×】 「これも給料のうち」

【○】 これも給料のうち。

【×】 これも給料のうち。

【○】 これも給料のうち…なんて思えるかあっ！

【×】 落ち着け！ それこそ会社の思うつぼだぞ。

【△】、パーをグーに変えて、ゴツゴツ叩きはじめる。

【○】 あ痛、痛い。一発一発は痛いというほどじゃないけれど、蓄積すると地味に痛い。

【×】 耐えろ。

【○】 なんなんだよ、こいつ。

【×】 怨むな。そいつはそれが仕事なんだ。

【○】 イライラが蓄積して殺意に変わりそうです。

どんなことがあっても、心をフラットに保て。感情と思考のスイッチをオフにしろ。感じるな、考えるな。そのうち時間は過ぎ去る。

早回し。【△】、【○】を光速でゴツゴツ叩く。

【△】、叩くのをやめる。

【○】 本当だ。

【×】 な。嵐はいつか過ぎ去る。

【△】、【○】をチョコキに変えて、【○】の目を突く。

【△】 ブスッ！

【○】 ギャー、目が、目がー！

と、短くブザーの音。

【○】 え！？ なんで？ なんで今のがアウトになるんだよ！

【×】 似てなかったからじゃないかな。

【○】 似てないって、何にですか。

【×】 大丈夫。アウトになったのはあいつの方だ。

【△】、舌打ちして去る。

【○】 え、どういうことですか？

【×】 あいつもリストラの対象者なんだよ。こないだまではここにいた。

【○】 ここに？

【×】 長いことこの部屋でスリーアウト取られずに頑張っていると、異動になるんだよ。

【○】 キャリア開発指導室ってここに。

【×】 キャリア開発指導室？

【○】 キャリア開発室にいる人間を指導する部署。要するに今度は追い出し役になるわけさ。なんせ、どうやったら追い出されないかは熟知してる。逆もまた真なりってわけだ。

【○】 追い出されない方法に詳しいってことは、逆に追い出し方にも詳しい…。

【×】 そういうこと。でも結局リストラの対象であることには変わりがない。追い出し役はアウトがとれなければ自分がアウトになる。要するに誰かを追いださなければ、自分が追い出される。そういうこと。

【○】 酷い。

【×】 でも仕組みとしては良くできてる。結局はどっちかがアウトになるんだから。

【○】 自分の不幸は他人の幸せ。人の勝ちは自分の負け。諸行無常だねえ。

【○】 じゃあカケさんもいつかは？

【×】 かもね。(チラリと時計に目をやって) お、もうすぐ昼休みだ。いやあ、今日は時間が経つのが速かった！

【○】 そんなことないですよ、時計の針が普段より遅く動いてるんじゃないかって思うくらい、長かったです。

と、ようやく十二時のチャイムが聞こえる。

【△】 うわっ！ もうこんな時間。
【△】 やっぱ、終電：はもう無理か。
【△】 あーあ、今日も午前様か。
【△】 しんどい。
【△】 つかれた。

どうやら、時計は昼の十二時ではなく、午前〇時を指しているらしい。

【△】 どうする？ 帰る？
【△】 あー、どうしよつかなあ。
【△】 もうちよいやる？ キリのいいところまで。
【△】 キリがいいところまでは、もうちよいだけど。
【△】 どうする？ 帰る？
【△】 腹減った。
【△】 じゃあ、帰りついでに一杯いく？
【△】 この時間はヤバいっしょ。
【△】 肌とか。
【△】 腹とか。
【△】 【△】の腹をつかむ）腹とか。
【△】 【△】の頬をつかむ）肌とか。

【△】 【△】、テンションの低い笑い。

【△】 あーあ。帰るか。
【△】 え、どうやって。
【△】 歩き。イノナカちゃんタクるの？
【△】 うん。うち、割と近いし。ハスヤマちゃん、タクらないの？
【△】 家までタクるお金がない。給料日前だしね。歩き歩き！
【△】 無理でしょ。ハスヤマちゃん家、隣の市じゃん。
【△】 合併で市になった、もと村だけどね。
【△】 へえ、結構田舎？
【△】 田舎田舎。人の数より、家畜の数が多いって噂あるくらい田舎。
【△】 へえ。
【△】 あと街灯がほとんどない。
【△】 なんて。
【△】 正確にはあるけど点いてない。
【△】 それこそなんで。
【△】 終電終わったら消える。
【△】 意味がわからない。
【△】 そんな夜中に、人、出歩いてないし。

【】 いや、いるでしょ何人かは。

【△】 あと、夜中明るい稲の生育に悪影響があるから。

【】 そうなの？

【△】 常識でしょ。

【】 初耳です。

【△】 マジで？

【】 ええと、つまり、それって、人より米が大切ってこと？

【△】 お米は大切でしょ。

【】 そりゃ大切だけど。どんだけ？

【△】 まあでも、うちの村じゃ、もうお米作ってないんだけどね。減反で。

【】 じゃあ夜中に街灯を消す意味は。

【△】 昔はあったけど、今は無い。

【】 変えればいいのに。

【△】 よし、決めた。行けるところまでタクってあとは歩く。

【】 危なくない？

【△】 危なくなくはない。

【】 だよね。

【△】 熊とか猪とか、夜行性の動物、いるからね。

【】 危ないってそういう意味？

【△】 え、どういう意味？

【】 いや、普通、気にするのは動物じゃなくて、人間じゃない。事故とか、犯罪とか。

【△】 事故は、車が道路と間違って夜中に用水路に転落するくらい？

【】 やっぱりつけようよ、街灯。

【△】 犯罪っていつても、うちの村、未だに玄関にカギかけないで寝るようなところだよ。犯罪よりも、野性動物による農作物の被害防止について、市議会で白熱した議論がかわされるっていう。

【】 え、そんなんでも市になれるの。

【△】 なったね。どういう理屈かしらないけど。

【】 でも、街灯消えたら真っ暗なんだよね。

【△】 月と星の光で結構見える。

【】 まあロマンチック。：じゃないよ、危ないって。そんなん天気次第じゃん。

【△】 今日は？

【】 曇り。ハস্যマちゃん家のほうは知らないけど。

【△】 そう考えると、治安のよさそうな大通りをまず歩けるだけ歩いて、家までタクという選択肢もある。
【】 なるほど。

【△】 しかしこの場合、歩くだけ歩いてタクシーに乗った後も、常に財布の中身とメーターを気にしながら起きてなきやならない。
【】 確かに。

【△】 しかも乗る時には汗だく。
【△】 なるほど。

【△】 タクシーからの歩きなら、これで行けるところまで！って言って寝ちゃっても
【△】 オッケー。

【△】 確かにそうだけど。

【△】 でもねー、そうやって頑張って家に帰っても、どうせ明日も朝早くからここで
【△】 仕事すんだよねー

【△】 だよねー。

【△】 あー、帰るのめんどくさー。もういっそ、ネカフェのナイトバックでも使うか
【△】 なー。

【△】 あのさ、よかったらウチ：

【△】 行く。

【△】 まだ「来る？」って言ってないけど。

【△】 行く。メイク落としとパンツ、コンビニで買って行く。

【△】 万全だね。

【△】 あと、明日上着一着貸して。

【△】 お局様対策？

【△】 あのババア、なにかネタがあったら、九スポ並みの膨らませ方するからね。昨
【△】 日と同じ服で出勤！とか、どんな噂に仕立て上げられるか。

【△】 確かに、想像しただけでも恐ろしい。

【△】 あと、タク代、割り勘でいい？

【△】 それはむしろ助かる。

【△】 よーし、父さんビールとつまみも買っちゃうぞー。

【△】 あのさ、もうちよつとキリのいいとこまでいいかな、仕事？ ちやちやつとや
【△】 っちゃうから。
【△】 どうぞどうぞ。

【△】 【△】、仕事を再開。

【△】 【△】、手持無沙汰に待っている。

【△】 まだ？

【△】 もうちよいもうちよい。

【△】 なんか手伝おうか？

【△】 んー、大丈夫。

【△】 しかしさー、なんでこんなに働くんだろうねえ。

【△】 残業代、でるわけじゃないし。

【△】 領収書、きれるわけじゃないし。

【△】 要するにただ働き。

【△】 働けど働けど、なお我が暮らし楽にならざり。

【△】 じっと手を見る。

【△】

何故、仕事をするのか。

【△】

そこに仕事があるからだ。

【△】

なんでそこに仕事があるのか。

【△】

それは人手が足りないからだ。

【△】

どうして人手は足りなくなるのか。

【△】

それはリストラしてるから。

【△】

どうしてリストラしてるのか。

【△】

会社の業績悪いから。

【△】

どうして業績悪いのか。

【△】

グローバル競争に負けたから。

【△】

グローバルってなんだろう。

【△】

そういやどういう意味だろう。

【△】

ネットで素早く調べてみよう。

【△】

ウイキペディアにも聞いてみよう。

【△】

グローバル＝全世界の・地球的な

【△】

グローバルイズム＝地球上を一つの共同体とみなし、世界の一体化を進める思想。

現代では、多国籍企業が国境を越えて地球規模で経済活動を展開する行為や、自由貿易および市場主義経済を全地球上に拡大させる思想などを表す。地球主義、

地球主義とも言われる。

【△】

そんな意味なの？

【△】

知りませんでした。

【△】

多国籍じゃないので。

【△】

島国なので。

【△】

内弁慶なので。

【△】

井の中の蛙なので。

【△】

着々と変わる外側の世界と、

【△】

遅遅として変わらない井戸の内側。

【△】

そこはガラパゴスと呼ばれ

【△】

世界とは違う進化を遂げた。

【△】

ここから出るのが正解なのか

【△】

ここに閉じこもるのが正解なのか

【△】

それともそこに答えはないのか。

【△】

そもそも答える必要があるのか。

【△】

一見何の問題もなさそうに見える世界

【△】

その裏側で、日々、問題は発生し、

【△】

積み重なり層をなし

【△】

時間をかければかけるほど、

【△】

先送りをすればするほど、

【△】

その層は厚く厚く

【△】

ますますその解決を難しくしていく。

【△】

【△】 時は過ぎる。
【△】 刻々と過ぎる。
【△】 世界は変わる。
【△】 刻々と変わる。
【△】 終電に乗り遅れた私たちを置いて。
【△】 タイムアップを迎えた私たちを置いて。
【△】 残酷なまでに
【△】 その姿を変える。
【△】 でも、その変わりようを、私たちは知らない。
【△】 世界の内側の、その更に内側にいる私たちには、それを知り得べくもない。
【△】 この世界がどこからきて
【△】 どこに向かい
【△】 どう変わり
【△】 どうなっていくのか。

四人、各々が様々な脱出を試みる。
舞台の形が、所々姿を変えていく。
しかし、それは大勢に影響を与えない程度の変化でしかない。
四人、やがて力尽きるように座り込む。

(シーン2終了)

時計は十一時過ぎを指している。

- あのだ。
 △ はい。
 ○ いつになったら、脱出できるんでしょうか。
 △ わかりません。
 × どれだけ問題を解いたら脱出できるんでしょうか。
 △ わかりません。
 △ 今、どのくらいまで進んでるんでしょうか。
 △ どうしてわからないですか。
 △ わかりませんよ、私も答え知らないんですから。
 ○ またまた。
 × そんなこと言って。
 △ 本当は知ってるんですよ。
 ○ さっきから、なんだかんだ言いながら、困った時はなんとかしてくれる。
 × 明らかに、あなたは答えを知っていて
 △ 知らない風を演じている。
 △ たまたまですって。考えましようよ、自分で。
 ○ 考え疲れました。
 △ そこをもうひと頑張り。
 × お腹がすきました。
 △ 脱出まで我慢でお願いします。
 △ 喉もかわきました。
 △ それも我慢で。
 × だってバナナが禁止だし。
 △ 水筒にジュースも禁止だし。
 △ えーと、繰り返しになりますよ、場内は飲食・喫煙禁止なんで。
 ○ 喫煙禁止はわかるよ。万が一火がついたら危ないからさ。
 △ ご協力ありがとうございます。
 ○ でもさ、飲食が禁止なのは何で。
 △ 飲食は…駄目ですね。
 × どうして駄目なの。
 △ それは、何ですかね。
 △ 知らないの、理由。
 ○ あ、いや、考えたこともなかったです。でも、あれじゃないですか、こぼすと汚れるからとか、そういう理由じゃないですか。
 ○ じゃあ、こぼさなければ？

え？

こぼさなければ、汚れない。そうでしょ。

でも物によっては容易にこぼれますよね。

たとえば？

筑紫もちとか。

どんなんだっけ、筑紫もちって。

なんかきな粉がまぶしてある餅に、黒蜜かけて食べる

しかもそれをつまようじ的なもので刺して食べる。

しかも、餅に弾力があって、なかなか刺さらない。

刺さったと思って持ち上げると、すぐ抜ける。

【×】【△】、筑紫もちを食べようとして落とす。パントマイム。

いきなり一番こぼれやすそうなものをチョイスするね。

じゃあ、カレーうどんとか。

【×】【△】、うどんを勢いよくすすする。

飛ぶ。汁が飛ぶね。

知らない間に五・六ヶ所はやられるね。

ストライプのはずのネクタイに所々謎のシミ

無地のブラウスにお洒落な水玉のワンピース。

どこからともなくスパイシーな香りがするようになるね。

食べないだろ、こんなところでカレーうどんとか。

そうですね。

極論でしょ。食べたならこぼれるとか。吸ったら火がつくとか。

まあ、確かに。

それでも、ここで煙草を吸わせるとまでは言わない。万が一にしても、火事になった時のリスクが大きいし、吸ってない他人も巻き込んで被害が拡大するから、そこは納得する。

はい。

それに人間煙草を吸わなくても死ぬわけじゃない。

むしろ、吸うと死ぬ。

飲み込んでも死ぬ。

だから喫煙が駄目なのはわかる。でも、飲食は…食のほうはともかくさ、飲のほうはべつにいいんじゃない？

いや、そう言われなくても。

いいですか、人間の成人の六十%は水分でできています。

赤ん坊は七十五%。

老人は五十%。

【×】 ナメクジは九十%。
【△】 クラゲは九十五%。

【○】 人間は一カ月断食をしても死にませんが、水を飲まないで一週間もたないとも
【△】 言われています。

【○】 そうなんですか。

【○】 それほど、水は大事なんです。

【○】 はあ。

【○】 要するに、こぼさなければいいんですよ。

【○】 まあ、そうですね。

【○】 缶のジュースとかならまだしも、ペットボトルならふたもできるわけで。こぼ
【△】 れたりしないでしょ。

【×】 そうだそうだ。

【△】 この人がいいこと言った。

【×】 (小声で)めずらしくいいこと言った。

【○】 変えましょうよ、ルール。

【○】 いや、でも私が決めたわけじゃないんで。いいのかな。

【○】 いいでしょ。

【×】 賛成。

【△】 大賛成。

【○】 ほら、3対1。七十五%が賛成です。憲法だって改正できるくらいの賛成多数
【○】 です。

【○】 いや、別に私も反対ってわけじゃないんですよ。

【○】 喉、渴きませんか？

【○】 そう言われてみると、渴いてるような気も。

【○】 でしょ？

【○】 (せき払い) 乾燥してるのかな、この部屋。

【○】 だったら。

【○】 …まあ、いいんじゃないですかね。こぼさなければ。

【○】 よしっ。可決！ この部屋で水は飲んでいい。

【×】 ビール！

【△】 ジュース！

【×】 (何か飲み物)！

【△】 (何か液体物)！

【○】 あの、でも、ルール変えても、ないですよ、飲み物。

【×】 またまた、そんなこと言って、本当はどこかに隠し持っていたり
【○】 しません。

【○】 確認ですけど。

【○】 はい。

【○】 飲み物が、あったら飲んでいい、そういうことでいいですよね。
【○】 はい。ないですけどね。

【○】でも、あなたなら、なんとかしてくれそうな気がする。
【】いやいや、ただのバイトですから。

カチリと何かのロックが外れたような音がする。

【×】あれ、今何か？

【△】聞こえたね。

【×】どこだろ？

【△】たしか、この辺。

【○】(壁を触りながら) ここかっ！

【○】、壁をさぐる。

と、壁がパカッと開き、水のペットボトルが4本出てくる

【×】【△】、素早く駆け寄り水を確認。

【×】神！

【△】マジ神

【×】求めよ、さらば与えられん。

【】良く知らないですけど、それ、たぶん意味違います。

【○】(水を取りながら) ほら！ やっぱりなんとかしてくれた。

【】いや、何もしてないですよ。

【○】またまた！ はじめからナビゲーター役も一緒に閉じ込められるってシナリオ
なんですよ。それで進行の具合を見ながらヒントを出していく。なるほどね。

【】違いますよ、ほんと。

【○】【】に水を渡して) じゃあ、水がどうして4本、ちゃんと人数分あるんです？

【】…あ、実は今日、直前でお一人キャンセルが入ったんですよ。だからじゃない
んですか。

【○】まあそういうことにしときましましょうか。

【○】、ペットボトルを開けて水を飲む。

【○】ふはあ。生き返るう。

【○】、水を飲みほし、ペットボトルをチラチラ見る。

【○】そして、次の問題は、ここか！

【○】、ペットボトルのラベルを剥がす。

【○】よっしゃ、調子でできた！

それを見て、【×】【△】もラベルを剥がす。

- 【○】 (ラベルの裏を読んで) 横のカギ
- 【×】 (ラベルの裏を読んで) 縦のカギ
- 【△】 なんか白黒の枠。
- 【】 私もだ。これって、クロスワードパズル？ ですよ。

【×】【△】、左半分の枠と縦のカギだけで解こうと奮闘。

- 【×】 縦の1 答えは4文字。ふるいじよし。
- 【△】 古い女子？
- 【×】 わからん、次。縦の4。2文字。はったりみせたりするもの。
- 【△】 (愉快的答え)
- 【×】 (更に愉快的答え) どっちでもいい気がするな。とりあず次、

【×】【△】、問題を解き続ける。

枠の右半分を持った【】を引っ張って。

- 【○】 協力してください。
- 【】 あ、はい、もちろんです。でも、一緒にやったほうがよくないですか？
- 【○】 (無視して) 横の9、3文字。のこされたもの。
- 【】 なんでしょね。
- 【○】 なんか意味ありげな太線で囲ってあるマスがあるし、ここは解いとかないと。多分、これが次のヒントになるんでしょ。
- 【】 そうなんですかね。
- 【○】 そうなんですよ。パターンのには。(考えて) のこされたもの…。3文字…。いや、飛ばそう。次、横の12 2文字。勝ちの反対。
- 【】 負け？
- 【○】 いやいや、地価かもしれないでしょ？
- 【】 冴えてる！
- 【○】 それほども。
- 【○】 横の10 かぶれます。3文字。
- 【】 帽子？
- 【○】 それもあるか。
- 【】 カツラ？
- 【○】 それもある。いやまてよ、かぶれるってどっちの意味だ？
- 【】 どっちってどういう意味です？
- 【○】 かぶることができるって意味のかぶれると、肌がかぶれるのかぶれる。すごい、キレッキレ！

【○】 帽子、カツラ、毛虫！
【】 (拍手) おー！

と、【×】【△】、もクロスワードを解き続けている。

【×】 縦の6、4文字。エビの偽装ならこれ。
【△】 バナメイ！
【×】 芝エビ！
【△】 どっちも4文字か。
【×】 どっちだ。
【△】 どっちだろう。
【×】 横の1を解けば、どっちかわかるんだが。
【△】 横の1ね。

横のカギは【○】が持っている。

【△】 せめて縦の1がわかれば。想像できるかも。
【×】 だから縦の1は、ふるいじよし。四文字。
【△】 ばあさん？
【×】 おばさん？
【△】 仮にはあさんだとすると、縦の6がパカシだから、横の1はバで始まってパカシで終わる四文字か。

バで始まってバで終わる言葉とかあるか？

【×】 バーバババ
【△】 長すぎ。
【×】 じゃあ、バで始まってシで終わる。
【△】 バシバシ

【×】 擬音じゃん。
【△】 晩飯。

【×】 おー！
【△】 すると縦の4がんで始まる2文字…って、ないな。
【×】 ないね。

縦の1がおばさんだとすると、オで始まってバで終わるのは…わからん。シか。

【△】 オ○○シ。
【×】 押し寿司。
【△】 おー！
【×】 押し出し
【△】 ふむふむ。
【×】 おすまし。
【△】 なるほど。

【△】 おもらし

【×】 いやん。

【△】 ダメだ、入る可能性のある言葉が多すぎる。

【×】 あとは、縦の5 うまい話にあるもの。二文字。

【△】 裏！ うまい話には裏がある。

【×】 それだ！

【△】 # ばんざーい、ばんざーい、ばんざい三唱パート2！

【×】 # ばんざーい、ばんざーい、ばんざい三唱パート2！

【×】 って、こんなところだけわかってもしようがないんだよ。

【△】 他は？

【×】 さっぱりわからん。

【△】 お手上げ。

【×】 迷宮入り。

【△】 クロスワードって、言葉をクロスさせないと、全然解けない。

【×】 やっぱ縦だけじゃなくて、横のヒントがないと。なんなんだ、横の1のヒントは？

【一〇】、論理的に追求中。

【○】 横の12・勝ちの反対。これの答えが、マケかチカとして、横の10・かぶれるもの。帽子、カツラ、毛虫。

【一】 縦の13が意味のある言葉になるのは、カシ、カラ、ケシ、ケラ。

【○】 なんか全部意味通るぞ。くそ、やっぱり縦のヒントがないとダメか。なんなんだ、縦の13は？

【一】 素直に、一緒に解けばいいじゃないですか。

【○】 嫌なんだよ、そういうの。

【一】 まあそっくいわずに

【○】 なんか、脱出ゲームって、みんなで協力しないと解けないみたいな仕掛けがよいちよい入ってるでしょ、

【一】 そう、ですかね。

【○】 そうだよ。事実、今がそうじゃないか。ですわね。

【○】 一生懸命頑張ってるって、やっとの思いで結果を出して。なのに、ロクに仕事もしてない上司が、美味しいとこだけは全部持ってって、やってらんないんだよ、ほんと。

【一】 まあ、そういうこともありますよね。

【○】 そのくせ、失敗した時には全部こっちのせい。だったら、はじめから終わりまで全部一人でやったほうがマシだと思いませんか？

【一】 ありますよね、そういうこと。本当は全員の責任なのに、トカゲのしつぽ切りみたいに誰か一人ののせいにするって。

【○】 だろ？
【○】 まあ、でもゲームですから。仕事じゃないんで。楽しまないと。
【○】 ……見てきて。
【○】 何をですか？
【○】 あっちのヒント。縦の13。
【○】 スパイですか？
【○】 人聞きが悪いな。
【○】 あの、どっちかだけに肩入れするっていうのは、ちよつと…。
【○】 まあそれもそうか。しょうがない。

と、【×】【△】も、なにか物欲しげに【○】【○】の方を見ている

【○】 おい。
【△】 なに。
【○】 聞きたいことがある。
【△】 奇遇だね、こっちもある。
【○】 縦の13。
【△】 横の1。
【○】 縦の13のカギはなんだ？
【△】 横の1のカギはなに？
【○】 答えるよ。
【△】 そっちが先でしょ。
【○】 信用できないね。
【△】 じゃあ、同時に言うつてのでどう。
【△】 それなら、いいだろう。
【○】 よし、じゃあ、1、2、3で同時にだ。【○】に【○】をお願いします。

何故か西部劇の決闘風に背中合わせになる【○】と【△】

【○】 あ、はい、1、2、3

【○】【△】、勢いよく振り向いて…

【○】 # あらかじめきまったかたち！
【△】 # 栽培すると捕まります！

間。

同時に喋ったので、お互い聞こえなかったようだ。

【○】 は？

【△】 なに？
【○】 今なんて言った。
【△】 そっちこそなんて言った。
【○】 聞こえないんだよ、同時に喋るから。
【△】 それはこっちのセリフ。
【○】 同時に言うって決めたのそっちだろ。
【△】 そっちも同意したでしょ。
【○】 もう一回言えよ。
【△】 そっちが先に言え。

【○】と【△】、鏝迫り合い。

【△】 (割って入って) ほら、もう、素直に一緒に解けばいいじゃないですか。ね。ほら、残り時間も少なくなってきた。

時計は既に十一時半を回ろうとしている。

【△】、【○】、【△】を仲裁。

【○】 ……不本意だけど、しょうがない。
【△】 ……一時、休戦ってことで。

【○】、【△】、【×】、【△】、【△】猛烈な勢いで解く。

【○】 出来た！
【×】 時間は？
【○】 まだあと20分ある！
【△】 もうあと20分しかない！
【△】 太枠の中の文字は？
【○】 枠の中の文字は(順番に読んで)ケイヒトヲケ？

また何かのロックが外れたような音。

先ほど水が出てきたところがまた開き、紙が6枚が出てくる。

「ケ」「イ」「ヒ」「ト」「ヲ」「ケ」

【×】、【△】、紙を闇雲に並べ替える。

【×】 ヒトケヲケイ！
【△】 イヒトケヲケ！
【×】 ケイヒトケヲ！
【△】 ヲケイヒトケ！
【○】 わかった！

【△】 あ、私もわかったかも。
【×】 何。
【△】 何何何。

【○】、紙を並べ替えて…

【○】 トケイヲヒケ。時計を引け、だ！
【△】 え？

【△】、微妙なリアクション。

【△】 あ、これ。あ、でもこれでもいいのか。

【○】、壁の時計のところに寄っていき…

【○】 時計を、引け。

【○】、時計の針のあたりを手前に引く。
ガチャガチャとなにかぜんまい仕掛けが激しく動くような音。
壁の一部が開き、そこから「いかにもな箱」が出てくる。

【△】 おー！
【○】 おー！
【×】 おー！
【△】 おー！
【○】 これは…箱？

【○】、箱を取り出す。

更にガチャガチャと音がし、壁と壁の間に細く隙間ができる。

【△】 おー！
【○】 おー！
【×】 おー！
【△】 おー！
【○】 これは、いよいよ脱出まであと少しって展開じゃない？
よくわからないけど、そんな気がします！

【△】、隙間から出ようと試みる。

【△】 んー、ダメだ。まだ狭すぎるー。

【○】 これだよ、これ。パターンのにはこの箱を開けると、中に脱出に必要なアイテムが入っていて、みたいな感じ。

【×】 でも、開けるってどうやって？

【△】 見たところ、鍵穴っぽいものもないし。

【○】 開くんですかね、これ。

【×】 (箱を見回して) ここ、まわりと少し柄がずれてる。

【△】 ほんとだ。

【○】 あ、こっちも。

【×】 ほんとだ。すごい微妙だけど。

【○】 ってことは、こうか！

【○】、箱の一部をスライドさせる。

【○】 動いた！ やっぱりだ。

【×】 じゃあ、こっちも？

【×】、箱の一部をスライドさせる。

【×】 動いたー！

【△】 (ガチャガチャいじって) あ、こっちがもう一段動く。

【○】、【×】、【△】、入れ替わりたちかわり、箱を触る。

【○】 少しづつ、いろんな場所がスライドして箱が開きそうになる。

【○】 しかし、最後の最後に誰も先に進められなくなる。

【○】 あれ。

【×】 なんで。

【△】 どうして。

【○】 動かない。

【×】 開かない。

【△】 どうにもならない。

【○】、軽い気持ちで…

【○】 あの、私もやってみていいですか？

【×】 きた、ヒントだ。

【△】 助け船だ。

【△】 糸口だ。

【○】、【×】、【△】、【○】に箱を渡す。

【 (なんか適当にいじってる) あれ。 : あの、開いちゃいました。

ものすごく微妙な雰囲気。

【 ○ え？

【 × 今

【 △ なんて？

【 ○ 開いちゃいました！

【 × え？

【 × 開いちゃった？

【 △ なんて？

【 ○ どうやって？

【 ○ あの、なんか、適当にいじってたら。

【 × 開いちゃったって？

【 △ またまた。そんなわけないでしょ。

【 ○ 【 から箱を取り戻して】 : 開いてる。

【 × 開いてる。

【 △ 開いちゃってる。

【 ○ あ、あの、なんか、すみません。

【 ○ ダメでしょ、開けちゃ。

【 × 開けるのは、私らでしょ。

【 △ なんであなたが開けちゃうんですか。

【 ○ うわあ、なんだこの納得いかない気分。

【 × たとえるなら自分のバースデーケーキの蠟燭を通りすがりの見知らぬおっさん

に吹き消されたような。

【 △ しかもイチゴだけ全部食べられちゃったような。

【 ○ ダメでしょ、あなたが開けちゃ！

【 × ダメでしょ、あなたが開けちゃ！

【 △ ダメでしょ、あなたが開けちゃ！

【 ○ あの、すみません、戻します。今すぐ戻します。

【 【 から再び箱を取り戻してガチャガチャいじくるが :

【 ○ あれ、おかしいな。戻らない。こうかな、あれ？

【 ○ 戻せるわけないでしょ。

【 × どうやって開けたのかわからないのに。

【 △ 仕組みも原理もわかってないんだから。

【 ○ 本当にそうです。ごめんなさい。

【 ○ 要するにね、それ、まだ開いてないのと一緒なんだよ。

【×】 そうそう。だって偶然なんだから。
【△】 もう一回やれていったって、できないんだから。
【○】 再現性がないものは科学じゃない。
【—】 あの、でも、大事なものは、箱の開け方じゃなくて、中身ですよ。
【○】 誰がその方法を見つけたのか。
【×△】 そしてそれが誰なのか。
【○】 そこが一番大事なところなの。

【—】 あの、クライマックスっぽいところを、偶然とはいえ、本当にすみませんでした。あの、もし、よかつたら、それ、皆さんで開けたつてことにしてもらえると助かります。

【○】 …そう？
【×】 ならまあ
【△】 いいですよ。
【○】 開いたー！
【×】 開いたー！
【△】 開いたー！
【○】 #
【△】 #
【×】 #
【○】 もうこれで脱出間違いなし。
【×】 世紀の大発見。
【△】 記者会見の準備！

【○】 【×】 【△】、開いた箱の中を覗き込む。
【△】 そこには…

【○】 あれ。
【×】 ない。
【△】 なにも入ってない！

【○】、箱の中を探るが、本当に何も入っていない。

【○】 なんで、どうして。
【×△】 どういうこと。
【△】 どうするの。
【○】 残り時間は！
【×△】 十一時四十分だから…
【○△】 あと二十分？
【×△】 さっきも十一時四十分じゃなかったか？
【○△】 たしかに。
【×△】 そうかも。
【○△】 まさか…。

【○】、時計の近くで耳を澄ませて…

【○】 止まってる…。

時計、十一時四十分で止まってしまっている。
残り時間が誰にもわからなくなる。

【×】 大変だ。

【△】 どうしよう。

【○】 何分、あと何分残ってる！？

【】 わかりません。

【×】 知ってるんですよ、本当は！

【】 残り二十分以下だってことしかわかりません。

【△】 ヒント、何か、ヒント！

【○】【×】【△】、一気に焦りの色を濃くする。

しかし、焦りのあまり、そのあたりをウロウロするだけで、何もできない。

【○】 どうすりゃいいんだ。

【×】 どこで間違えたんだ？

【△】 それともこれが何かのヒントってことなの？

【○】 どうしたら。

【×】 どうすれば。

【】 あの、もしかしたらですけど。

【○】 何。

【】 (床の紙を指して) さっきの、あれじゃないかと。

【○】 トケイヲヒケ？

【】 はい。

【○】 間違いないだろ。

【】 間違いないとは思うんですけど。

【○】 どういう意味。

他にも答えがある気がして。あの、私、こうじゃないかって思ったんですけど。

【】、紙を並べ替える。

【○】 ケイトヲヒケ。

【×】 毛糸を引け？

【△】 毛糸って…

【 】 ほら、そこ。

【 】 が指した先に、天井から確かに毛糸が一本垂れ下がっている。

【 ○ 】 え、こんなの、いつからあった？

【 】 いや、ずっとありましたけど。

【 ○ 】 なかった。

【 】 ありましたよ。

【 ○ 】 そんな馬鹿な。

【 】 あったけれど、目に入らなかつただけなんじゃ。

【 × 】 そんなことよりも、

【 △ 】 とにかく今は引いてみるのが先決！

【 △ 】、【 × 】を踏み台に垂れ下がっている糸に手をかける。

【 △ 】、毛糸を引くが、びくともしない。

【 △ 】、力を込めて…

【 △ 】 ぐうううう！

と、プツリと糸が切れる。

静寂。

【 ○ 】 【 × 】 【 △ 】、あたりを見回すが、何も変化はない。

【 △ 】 切れた。

諦めにも似た、静かな間。

【 ○ 】 希望の糸が。

【 × 】 蜘蛛の糸が。

【 △ 】 アリアドネの糸が。

【 ○ 】 完全に、切れた。

【 × 】 どこだ。

【 △ 】 どこで間違った。

【 ○ 】 どこまで戻ればいい。

もう立ち戻る、そんな時間さえないのに

どこまで戻り、

どこからやりなおせばいい？

カチカチと秒針を刻む音が聞こえる。

それはまるで何かのカウントダウンのように。

【○】　なんで。
【×】　どうして
【△】　答えを知ってるんじゃないの？
【○】　だから、ずっと言ってるじゃないですか。私も知らないって。
【×】　騙された。
【△】　謀（たばか）られた。
信じてたのに。

【○】　【×】　【△】、あてどなくそのあたりをフラフラと。
【○】、壁の隙間からその向こうを覗いて…

【○】　（遙か上の方向を見て）見えた！　ある、糸が。

【×】　【△】　も壁の隙間に顔を突っ込んで…

【×】　どこ！
【△】　あつた。ほら、あっち、上の方！
【×】　本当だ！
【△】　引いて、それ、引っ張って！
【○】　届かない。

【○】、隙間から出てきて…

【○】　駄目だ。…道具、なにか道具は。

【○】、あたりを探るが、ペットボトルや紙くずくらいしか見当たらない。
【○】、それらで何とか道具らしきものを急ごしらえする。

【×】　ぐううう、届かん！
【△】　頑張れー
【×】　ああ、どうして俺は怪物くんでもルフィでもないんだ！
【△】　伸びろ、腕！
【×】　いまさら成長しろ、進化しろ。俺の腕！
【○】　腕じゃなくても、指でもいいし、爪でもいい。とにかく何でもいいから伸びろ！
邪魔だ、どけ！

役に立ちそうもない道具を抱えた【○】。

【×】　どけて、そんなんで何ができるんだよ。

【○】腕伸びろとか言ってるお前らより、百倍マシだろ！ 伸びるか、馬鹿！

【○】、【×】、【×】を遠くに投げ飛ばす。

【○】これで、なんとか、届くはず。

【○】、懸命に糸を引こうとする。

【○】よし、かかった！

（戻ってきた）馬鹿ってなんだ、馬鹿って。

【×】ああっ！ 何すんだ、せつかく届いたのに！

【×】こうなったら一蓮托生。

【△】死なばもろとも！

【○】離せ、離せってば！

【○】、【×】を蹴り飛ばす。

【○】、隙間に体をねじ込み、無理矢理脱出しようとする。

【×】、【△】、それをひきはがし、我先に脱出しようとする。

三人の醜い争いが繰り広げられる。

それはやがて、壁そのものを破壊するような方向に変化していく。

【○】ちよっと、落ち着いて。落ち着いてください！

【△】何が落ちつけた。

【×】誰のせいでこうなったと思ってるんだ。

【△】お前のせいだ。

【○】お前が何とかしろ。

【×】責任取れ。

【△】お前がやれ！

【○】え、ええっ！？

三人、【○】を隙間に無理矢理押し込もうとする。

【○】、半分以上隙間にめり込む。

【○】いたたたた、無理無理無理っ！

【×】無理じゃない。

【△】無理を通せば道理が引つ込む！

【○】伸びろ、腕！

【△】うううう、あ、掴んだ！ 届きました！

【○】伸びた、腕？

【△】伸びてないと思いますけど、掴みました。指先ギリギリ。

【○】
【×】
【△】
【○】
【○】

離すなよ、
引け！
引っ張れ！
無理です、指先でつまんでるだけで精一杯です。
よしわかった。じゃあ、そのままつまんでろ。
え？

三人、【】の体のどこかを掴んで…

【○】
【×】
【△】
【○】
【×】
【△】

いくぞ、引け！
引け！
引け！
引け！！
引け！！！！

三人、力を込めて【】を引っ張る。

その力でついに【】が隙間から引っぱり出される。

音楽。

【】の指先の糸に引っ張られるように、数多の問題が雪崩のように押し寄せてくる。

それは隙間と言う隙間から降り注ぎ、世界を埋め尽くしていく。

(シーン3終了)

舞台は「問題」という丸められた紙くずで埋め尽くされている。
 【○】【×】【△】、そのいくつかを開き……

【○】 どれを解けばいい。
 【×】 何から解けばいい。

【△】 この世界の問題を解決する、もつれにもつれた糸口を、一体どこから解きほぐせばいい。

【○】 お前が解け。

【×】 お前がやれ。

【△】 そっちでなんとかしろ。

【○】 俺の責任じゃない。

【×】 俺は担当外。

【△】 こっちの管轄外。

【○】 お前が解け。

【×】 お前がやれ。

【△】 そっちでなんとかしろ。

【○】 俺の責任じゃない。

【×】 俺は担当外。

【△】 こっちの管轄外

三人、それらの言葉を繰り返しながらあ、紙くずをお互いに投げつけあう。
 問題の総和は変わらず、ただ先送りされ、たらい回しにされる非生産的な

サイクル。

やがて、その方向は【】に向かっていく。

【○】 教えてください。

【×】 どうすれば。

【△】 教えてください。

【×】 どうするか。

【○】 教えてください。

【×】 どうすれば。

【△】 教えてください。

【×】 どうするか。

【○】 教えてください。

【×】 どうすれば。

【△】 教えてください。

【×】 どうするか。

【○】 解決してください。

【×】 シャープな頭と
【△】 フラットな心で

【】 【】が一身にその問題を浴びせられる。
みるみる【】の足元が問題で埋められていく。

【】 答えは。：わかりません。

静かな間。

【】 …でも、あります。

音楽。

時計は限りなく24時近くを指している。

【○】【×】【△】、永遠に決着のつかない三目並べを始める

【】 人生を24時間に例えるなら

【○】 人は0時に生まれ

【×】 6時に成人し

【△】 7時過ぎには働きはじめ

【】 12時には人生の折り返しを過ぎ

【○】 20時近くまで働き続け

【×】 23時には病を得

【△】 24時には永遠の眠りに就く。

【】 もしも、その時計が23時59分を指したとして、その最後の1分を

【○】 心静かに迎えるのか

【×】 後悔に満ちて迎えるのか

【△】 それともそのどちらでもないのか。

【】 その最後の1秒を

【○】 晴れやかな頬笑みとともに迎えるのか

【×】 ただうろたえ、のたうちまわるのか

【△】 それとも、そのどちらでもないのか。

【】 答えがひとつとは限らない。

【○】 答えがあるかもわからない。

【×】 西暦と元号が同じ時を指すように

【△】 0時と24時が同じ針を示すように。

【】 ドのシャープはレのフラットと同じ音を

【○】 レのシャープはミのフラットと同じ音を指すように

【×】 一つの言葉が幾通りにも解釈できるように

【△】 いくつもの言葉がただ一つの意味を指すように

- 【 】 この世界はいくつかの方程式であらわせるほどに単純で、複雑すぎるほどに複雑だ。
- 【 ○ 】 そんな世界を解き明かそうとすること自体が正しいことなのか
- 【 × 】 それとも無意味なことなのか
- 【 △ 】 それとも、そのどちらでもないのか。
- 【 】 どちらも正しく
- 【 ○ 】 どちらも正しくないかもしれない
- 【 × 】 でもそれでも構わない。
- 【 △ 】 間違いも、立派な前進だ。
- 【 】 人生に良く似ているのは、迷路かそれとも迷宮か。
- 【 ○ 】 道に迷うことは、間違いを見つけたことと同じで、
- 【 × 】 正しい道を絞り込むことと同じだ。
- 【 △ 】 ただ、あきらめ、立ち止まらない限りは。
- 【 】 だから、進め。幾多の選択を繰り返し、迷い、悩み、間違いながら、その最後の1秒まで正解と不正解を繰り返せ。
- 【 ○ 】 この争いに終わりはあるのか
- 【 × 】 この争いに勝負がつくのか
- 【 △ 】 それとも、ただ、永遠に不毛な争いをを繰り返すだけなのか。
- 【 】 答えは、わからない。でも、確かに存在する。

音楽。

全員、そのうず高く積み上がった問題を解き続ける。

解くほどに、また新たな問題が積み上がり、減っていくようには見えない。

それでも精一杯進み続ける姿を残し、暗転。

(幕)

脚本執筆に際し、下記を参考にし、脚本中に使用しました。

Wikipedia 「グローバルイズム」の項